



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Theme of Rotary International 1994-5

BE A FRIEND

友達になろう

1994-5年度国際ロータリーのテーマ/ビル・ハントレーRI会長

●本日の例会

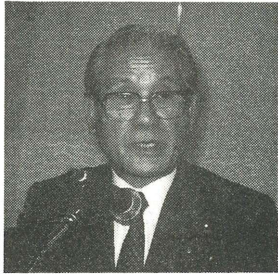
12月2日/第395回例会

■年次総会（次年度（95～96年度）理事選挙）

■卓 話 「公文の国際貢献」 (株)公文教育研究会取締役 小林利郎氏

●先週報告

11月25日/第394回例会



■第3回クラブセミナー

「国際ロータリーの組織と運営——その現状と展望」 ロータリー情報委員長 渡邊 治
1980年代に入ってからロータリー財団の奉仕活動には、決議「23-34」の精神からみて疑問を抱かせるものがある。R財団の奉仕活動は、1960年70年代のクラブ単位、地区単位の奉仕活動（例えば各種奨学金制度、研究グループ交換、同額補助金等）から、1980年代には案件の大型化（例えば3Hプログラム・ポリオ・プラス等）が進み、R財団主導の結果としての各クラブ段階での「精神的空洞化」が次第に見られるに至った。このような変化の背景は、(1)R財団の資金が潤沢になったこと、(2)会員数の増大により社会奉仕のニーズが多様化したこと、(3)80年代に入り、発展途上国からのRI会長が相續いて登場したこと、(4)国際機関からの協力要請が強いこと等があげられる。

他方決議「23-34」に化体されるロータリーの理念を一言で云えば、次のことである。「ロータリーの原点は親睦と職業奉仕である。職業奉仕の延長線上にある社会奉仕は、本来各ロータリアン個人の奉仕」活動であるべきであって、クラブが一丸となって行う社会奉仕は望ましいものではない。」

このような考え方からみれば、80年代に入ってからR財団の奉仕活動は、「決議23-34」の指向するものから逸脱している点が多々あると云わざるをえない。しかし同時にそれは時代の流れとしてある程度は受入れざるを得ない点でもある。時代の変遷に取残されたロータリーであってはならない。この意味で1992年の規定審議会で新しい社会奉仕活動の方針が採択されたことはそれが「決議23-34」の併設を前提としているだけに十分受入れられるところである。しかし、RI理事会には、「決議「23-34」は時代遅れのものであり、撤廃されて然るべきもの」との考え方の強い流れがあるように見受けられる。われわれロータリアンはいま一度「決議23-34」の意味を正しく理解する努力をする必要がある。

■会長報告

1. 2750地区会長・幹事会が11月18日に開催され、環境保全基金などのテーマが討議されました。
2. 11月25日開催の千代田・京浜・山の手合同IMに多数出席をいただきありがとうございました。

■幹事報告

1. 12月定例理事会を次週例会後（13:50～15:00）開催します。
2. 12月9日(金)例会は忘年家族会12月7日(水)に振替となります。

■親睦活動委員会（関委員長）

昨日の新会員歓迎会、多数のご参加ありがとうございました。
12月6日の火曜会は佐藤さんのご好意により昔なつかしいレコード音楽を聞きながら、フランクな雰囲気で開催します。どうぞご参加ください。

■社会奉仕委員会（荒木副委員長）

12月7日忘年家族会に併せて開催されますチャリティバザーに、会員の皆様より寄贈品のご提供を頂きたく、重ねてご協力の程よろしくお願い申し上げます。寄贈品は次週12月2日例会までにご持参下さい。

■ロータリー財団委員会（入沢委員長）

11月24日(木)ホテルサンルート東京において2750地区主催のロータリー財団における国際奉仕および世界社会奉仕に利用できる「同額補助金」制度の説明会がありました。当クラブも受入援助国のマニラダウンタウンロータリークラブとこの制度を利用しマニラダウンタウンの青少年のコンピューター教育のためコンピューターを寄贈した経験があります。この制度は当クラブの国際奉仕又は世界社会奉仕活動資金を4倍にも6倍にもできる制度であり、この制度の理解とご活用をお願いします。

■ロータリー情報委員会（渡邊委員長）

来年1月23日からカラカスで開催される規定審議会で提出される制定案の内容が明らかになりました。今回制定案の件数は148件、決議案についてはRIからの連絡がなく、日本支局でも不明の由。仄聞するところでは約40件程度とのこと。代表議員は全世界で506人、第2750地区からは秋山パストガバナーが代表議員として出席される。当クラブの態度を理事会で決定の上、秋山代表に委任することとなる。

■慶事披露

- お誕生日祝：渡邊 治君(11月28日)
- 100%出席：渡部一元君(4年)・西澤正雄君(3年)・佐々木忠行君(1年)

■出席報告

- 会員72名・出席42名・欠席30名(出席規定免除者6名)
- ビジター(7名・敬称略) 小峰亮一(大阪西北)・寛本孝二(浦和東)
- ・渡辺隆一(東京紀尾井町)・及川 哲(東京日本橋)・成瀬 勝(東京原宿)
- ・佐藤皓一(東京京浜)・杉山民治(東京南)

ゲスト(2名・敬称略) 知野根好樹(馬場会長ゲスト)・金 榮燦(米山奨学生)

●千代田・京浜・山の手分区合同IMの概要報告

平成6年11月21日
於ホテルパシフィック東京

午後1時開会点鐘、出席クラブ等の紹介、ガバナー挨拶のあと、第一部の記念講演、第二部の分科会、第三部の懇親パーティーと続いた。
第一部の記念講演は新橋RCの長岡 實氏による「戦後半世紀の歩みを振り返って」であり、戦後日本の経済・産業を数値を駆使してのなつかしさを感じる講演であった。
第二部の分科会は6つの分科会にわけられ、その内容は下記の通り。

第一分科会：

「クラブ運営活性化のポイントを明らかにしよう」

事前アンケートの集計結果の説明から、各クラブの問題点等が明らかにされた。続いて、①会員増強②財政の健全化③出席率の向上④親睦を深め例会を楽しむ⑤女性会員の入会の5つのテーマにしぼり、芝、荏原かめりあ、自由ヶ丘、駒場、京浜の各クラブから、今やられている具体例、苦労話が披露された。最後に松原バストガバナーよりこの場では考えるヒントを得る席と考え、それぞれがいかに実行していくかであるところのお話で締められた。(まとめ 後藤)

第二分科会：

「新しいロータリー財団活動への理解を深めよう」

下記の内容についての発表と質疑応答があった。

1. R財団の基本活動と本分科会のテーマ「新財団活動」の理解。
2. オーバーセットプロジェクトによる新R財団の説明。
3. 新R財団の増進について。
4. GSE実行と目的について3分区活動計画
5. R財団のあゆみと現況 (まとめ 入沢)

第三分科会：

「拡大・増強で増加する女性会員の役割に期待しよう」

3分区の42クラブからのアンケート(36の回答)によると、女性会員に賛成・検討中が20クラブ・反対0クラブ、考えてない16クラブ(千代田3、京浜4、山の手9)である。なお、港南3名、駒場3名、神宮9名の合計15名の女性会員が3分区に既に居る。

女性会員の導入について賛否・中立意見が述べられたが、傾向として都心のクラブに慎重論が多い。

女性の社会進出の現状からみて、10年後には女性会員は当然のこととして受け入れられ、これを受け入れるか否かは各クラブの判断に任されることになるであろう。(まとめ 大日方)

第四分科会：

「青少年交換の問題点を理解し、解決の方策を考えよう」

30年前プライベート・ベースでスタートした青少年交換プログラムは、その後各ロータリークラブの公式活動として発展し、未だ不十分とはいえ、94年度、派遣学生312名来日学生321名の規模に達している。(目標はロータリー会員の1%約1200名)本プログラムは国際理解と親善を推進する為高校生を交換し、学業よりも外国の文化、習慣を身につける事を目的とする。従って学生の選考基準は成績にはあまり重点をおかず1/2以上の成績であれば可としている。

今後共発展させて行くべきプログラムであるが、問題点も多く、一つ一つ解決して行く必要がある。例えば①英語圏に片寄り過ぎる。②ホストファミリーの受入体制(ロータリアン個人の問題ではなく、家族始多くの人協力が必要)③緊急事態への対応etc。

最後に本プログラムは、学生の滞在期間の終了で終わるわけではなく、それ以降の長いきづなを育てて行くことが肝要なことを付言しておき度い。(まとめ 伊部)

第五分科会：「会員参加の環境保全のあり方を見つけよう」

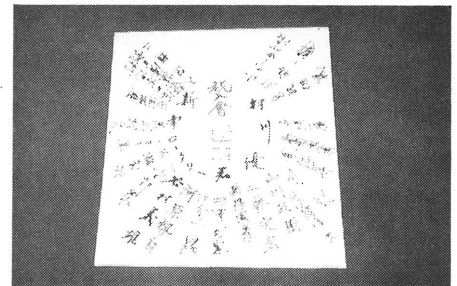
現在 地球環境問題は、現代人類が直面している大問題であり、一人一人のロータリアンがこの点の様に受けとめ具体的に行動したら良いかを、考える為に2750地区の環境委員によるパネルディスカッションが開かれた。時あたかもバブル経済崩壊地球サミット開催があり、大量消費型の生活様式から、自然と人間の共存きでる省資源、省エネルギー型へ変化しなければならない時期に来ている。この事が、地球環境の汚染防止に役立つ事だと痛感された。(まとめ 吉岡)

第六分科会：「社会奉仕活動の現状と課題を理解しよう」

地区社会奉仕委員3人による事例報告の発表後、カウンセラーより「社会奉仕は心の問題、人生哲学の問題である。人が出会い、語り合い、心が通じることによりコミュニティーができシェアすなわち分かち合いの心が生まれる。奉仕の心を磨くこと。これが社会奉仕の出発点である」との深い示唆あることが述べられ、意義ある分科会であった。(まとめ 青野)

●新会員歓迎会の報告

日時：平成6年11月24日 18:00~20:30
場所「うすけぼー」
出席者：相澤、荒木、馬場、後藤、入沢、岩瀬、河原、川鍋、宮武、松村、二宮、大日方、佐々木、佐藤、関、柴藤、四分子、新保、高橋、高須、武下、若林、渡邊、山川、山下、吉岡(26名)



本年度の第1回新会員歓迎会が、村松秀二・高橋良士・若林清和等新会員(村川優新会員は海外出張にて残念ながら欠席)を迎えて総勢26名の会員出席の下、11月24日(木)18:30より「うすけぼー」日比谷店にて行われました。会はず馬場会長の歓迎挨拶に始まり、各新会員の紹介とご挨拶、二宮副会長の乾杯そしていよいよ懇親の宴へと進みました。新会員を囲んで、皆様が美味しい料理とお酒を味わい、そして楽しく和やかな親睦溢れる雰囲気になりながら2時間を過ごしました。最後に谷村会員より新会員に贈られた色紙に出席会員全員が署名して馬場会長より各新会員に手渡され、後藤幹事の手締めにて無事閉会しました。(川鍋 記)

ニコニコBOX

順不同、敬称略 11月25日/13件、¥56,180、¥1,018,933、多額の寄付金を有難うございます。
渡邊 治/渡部一元/吉田棟親/馬場一廣/山下忠治/後藤信夫/親睦活動委員会
新会員歓迎会参加者と親睦委員有志から/若林清和/岩瀬秀郎/高橋良士/川鍋二郎/松原秋夫/保森 登 (紙面の都合上、コメントは省略させていただきます。)

●12月行事予定

2日(金)・年次総会 [次年度(95~96年度) 理事選挙]
・12月定例理事会 例会後 13:50~15:00 東京全日空ホテル 1F 孔雀の間
6日(火)・火曜会 17:30~19:30 東京全日空ホテル 37F アストラル
7日(水)・忘年家族会 東京全日空ホテル B1 鳳(西)の間
8日(木)・地区第2回ロータリー財団委員長会議 新高輪プリンスホテル2F飛鳥の間 15:00~17:00
21日(水)・第4回千代田分区会長・幹事会 銀座東武ホテル 2F 芙蓉の間 18:30~
23日(金)・休会(天皇誕生日) 30日(金)・休会(年末)

●次回予告 12月7日水

■忘年家族会

東京全日空ホテルB1 鳳(西)の間

登録開始/16:20~ チャリティバザー/16:30~17:20 例会・忘年家族会/17:30~20:20

●次々回予告

12月9日金の第396回例会は12月7日の忘年家族会に振替

12月16日/第397回例会

■次々週はビュッフェスタイル例会のため卓話はありません。

八雲の間

東京新南ロータリークラブ

会長：馬場一廣 副会長：二宮利泰 幹事：後藤信夫

〒107 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階

TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日・12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111

〈会報委員〉

吉田 用親、柴藤清三郎、川鍋 二郎、

田中 武、山川 政樹、梶内 滋男、

宮本 正祥、新保 國彦、横山 秀明、

河原 勢自(編集担当順)